

八尾・よろず考古通信

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌 年2回発行



平成30年度の主な発掘成果から

平成30年度に市域で実施した埋蔵文化財発掘調査では多くの成果がありました。

市域南部の東弓削遺跡・弓削寺跡では、奈良時代の瓦や鎌倉時代の土坑などを発見しました。また、西部の太子堂遺跡では、奈良時代(8C)の井戸や土坑などが見付き、居住域の存在が明らかになりました。さらに、北部の西郡遺跡では、飛鳥時代後半の瓦や中世の曲物椀を有した井戸が見つっています。



史跡 由義寺跡の南で奈良時代後期の瓦を発見！

東弓削遺跡<第33次調査>・弓削寺跡<第8次調査>(東弓削三丁目)

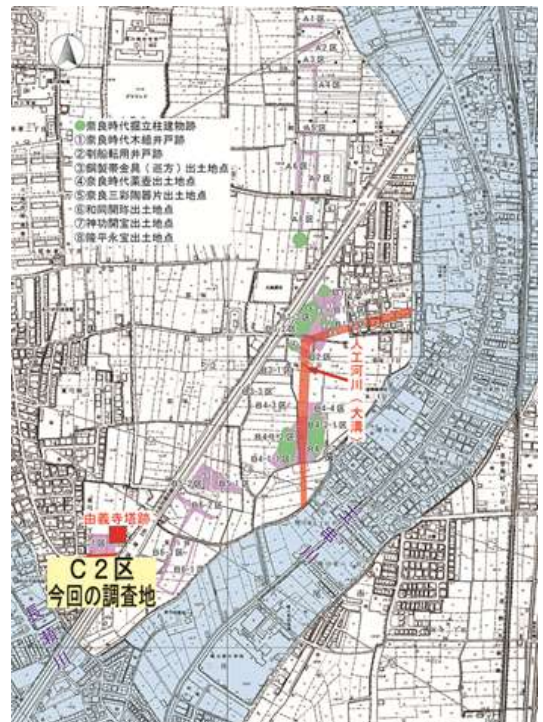
東弓削遺跡・弓削寺跡は、大阪府八尾市の南部に位置します。現在の行政区画では、八尾木、東弓削、都塚の東西約1.3km、南北約1.2kmが遺跡の範囲とされています。地形的には、本遺跡南部の二俣付近で分流する長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地に立地する遺跡です。これまでに行われた発掘調査では、弥生時代中期(前2C)～中世(15C)の遺構や遺物が確認され、当該期の集落が展開していることが明らかになりました。

東弓削遺跡・弓削寺跡一帯は、『続日本紀』に記される、称徳天皇や弓削道鏡にかかわる「由義寺(弓削寺)」、「由義宮」、「西京」の推定地でもあります。

平成30年度に行った調査(C2区)は、曙川南土地区画整理事業の区画道路建設に伴う発掘調査で、調査面積は約67㎡を測ります。

調査では、全域で中世～近世の土坑21基、溝1条を検出しました。このうち、土坑(SK6)からは鎌倉時代前期(13C)の瓦器椀が出土しました。また、6層中では2箇所まで古代瓦や凝灰岩・花崗岩片が出土しています。

今回の調査地は、平成28年度に調査を実施したC1区の南に位置します。C1区南端では東西方向にのびる池状遺構、あるいは溝と考えられる中世の遺構の北肩部分を検出しており、本調査地ではこの遺構の南肩が検出される可能性がありましたが認められませんでした。このことから、こ



東弓削遺跡・弓削寺跡の調査地点および主な遺構・遺物検出地点平面図



S K 6 遺物出土状況(北から)



西部6層中瓦出土状況(西から)

の遺構は両調査区間で収まることが確認されました。また、C1区北東部では、史跡由義寺跡の塔基壇が確認され、大量の瓦が見つかっています。本調査でも古代の瓦や凝灰岩片が出土しましたが、寺院に関連する遺構は認められませんでした。

奈良時代の居住域を発見！

太子堂志紀遺跡<第17次調査>(東太子二丁目)

太子堂遺跡は、八尾市の南西部に位置し、現在の行政区画では太子堂三～五丁目、東太子二丁目、南太子堂一～六丁目の東西約0.8km、南北約0.65kmがその範囲と推定されています。地理的には、平野川流域の沖積地上に立地しています。本遺跡周囲には、北西に跡部遺跡、東に植松遺跡が隣接する他、西に亀井遺跡、東に植松南遺跡、南に木の本遺跡が存在しています。

本遺跡は、昭和58(1983)年3月に八尾市教育委員会が東太子二丁目で行った試掘調査において、古墳～奈良時代の遺物包含層を確認したことにより認識された遺跡です。その後、八尾市教育委員会・当調査研究会による試掘調査や発掘調査が行われ、弥生時代～中世に至る複合遺跡であることが明らかになりました。



第1面完掘状況(南から)

平成30年度に実施した調査は工場建設に伴うもので、調査面積は約184㎡を測ります。

調査では、現地表下1.7m前後までの1.1～1.3m間において6層の地層を確認しました。このうち1層は現代、2層は近世、3層は中世以降の作土層で、4～6層は奈良時代～中世の遺物を含む地層です。このうち、5層上面～層中(第1面)、5層中(第2面)、6層上面(第3面)の3面の調査を実施し、奈良時代の遺構を確認しました。

第1面では、井戸3基(SE1～3)、土坑14基(SK1～14)、溝6条(SD1～6)、柱穴4個(SP1～4)、第2面では井戸1基(SE4)、土坑11基(SK15～25)、溝9条(SD7～15)、柱穴8個(SP5～12)、第3面では土坑20基(SK26～45)、溝5条(SD16～20)、柱穴9個(SP13～21)を検出しました。

第2面で検出した奈良時代の井戸(SE4)は、平面形状が円形で、径約1.6m以上を測り、中央に5枚の縦板で構成される径1.0～1.2m程度の楕円形の井戸枠がありました。そのうちの3枚は割船の船材を転用していました。3枚の内1枚は高さ1.7～1.9m、幅0.5～0.7mで、他2枚は高さ約1.5m、幅0.2～0.4mを測り、表面には手斧による整形痕が認められました。井戸枠内の上層からは炭化物とともに奈良時代の土師器の甕、須恵器片、種子が多数出土し、また井戸の掘方からも土師器片、須恵器片、瓦片が多数出土しました。そのほか、土坑(SK18)からは、硯として使用されたと考えられる奈良時代後期の須恵器の杯蓋が出土しています。



第2面完掘状況(東から)



SE 4 (南から)



SK 18(奥)・SK 22(手前)遺物出土状況(南から)



SK 24 遺物出土状況(東から)

西郡廃寺に関連する遺物が出土！

西郡遺跡<第3次調査> (泉町二丁目)

西郡遺跡は八尾市の北部に位置し、現在の行政区画では泉町一～三丁目、幸町一・三・四・六丁目、桂町一・二丁目の東西約0.5km、南北約0.8kmがその範囲とされ、本遺跡内の北部には西郡廃寺が所在します。地形的には長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地します。本遺跡では八尾市教育委員会や当調査研究会による発掘調査が行われ、弥生時代後期(2C)～中世(15C)に至る複合遺跡であることが判りました。また、西郡廃寺は飛鳥時代後期の創建とされ、泉町二丁目に鎮座する西郡天神社の境内にある塔心礎の存在から、周辺に寺域があった可能性が極めて高いと考えられています。

平成30年度に実施した調査は工場建設に伴うもので、調査面積は約127㎡を測ります。調査は、東西方向に長い調査区を3箇所(1～3区)設定し実施しました。

調査では、現地表下約0.6m(標高4.4～4.6m)において、中世～近世にかけての遺構群を検出しました。この内3区で検出した井戸(SE 1)は曲物枠を有します。曲物枠内からは鎌倉時代(13世紀後半)の土師器や瓦器、白磁、瓦などが出土しました。また1区から3区にまたがって検出した3条の溝は、いずれも南北に延びるもので、この内中央に位置する溝(SD 2)の最下層からは、土師器や瓦が多く出土しました。土師器や瓦は飛鳥時代後半に遡るもので、本地の北西部に造営されたとされる西郡廃寺に関連する遺物の可能性があります。



2区全景(南西から)



3区SE 1 検出状況(北から)

交流を通じて生み出された土器—手焙り形土器

手焙り形土器は、鉢部の上にドーム状の覆部が付く(図1)土器で、弥生時代後期中葉に出現し古墳時代前期前半まで使用された器種です。使用方法は、内部に煤が付着するものが一部に見られることから、火を使用する器であった可能性があります。なお、住居跡・墳墓・土坑等から出土する場合と溝・河川に捨てられた状況で出土する場合があります。前者の出土例に完形品が多いとされています。手焙り形土器は何らかの祭祀に用いた可能性がある土器であったと推定されますが、具体的な祭祀の方法はよくわかっていません。

ここでは、河内から出土する近江の特徴を示す土器を基に、手焙り形土器の成立について推測してみます。

恩智遺跡の溝(SD13)から出土した弥生時代後期中葉の出現期の手焙り形土器(図1)の形は、近江の特徴を示す受け口状口縁を持つ鉢に覆部が付いたものです。また、弓削遺跡の溝(SD301)から出土した弥生時代後期中葉の河内産と考えられる手焙り形土器(図3)は、覆部や鉢部の外面に近江地域の特徴である列点文や波状文を施しています。

八尾南遺跡では、近江地域の形状および施文の特徴をもつ弥生時代後期中葉の鉢(図2)が出土しました。図1や図3の手焙り形土器は、図2のような近江系の鉢を祖形とし、河内で生み出された可能性が考えられます。このように河内での手焙り形土器の出現期には、近江系の土器が影響したことが判り、河内と近江との交流を考える上で非常に重要なものと言えます。

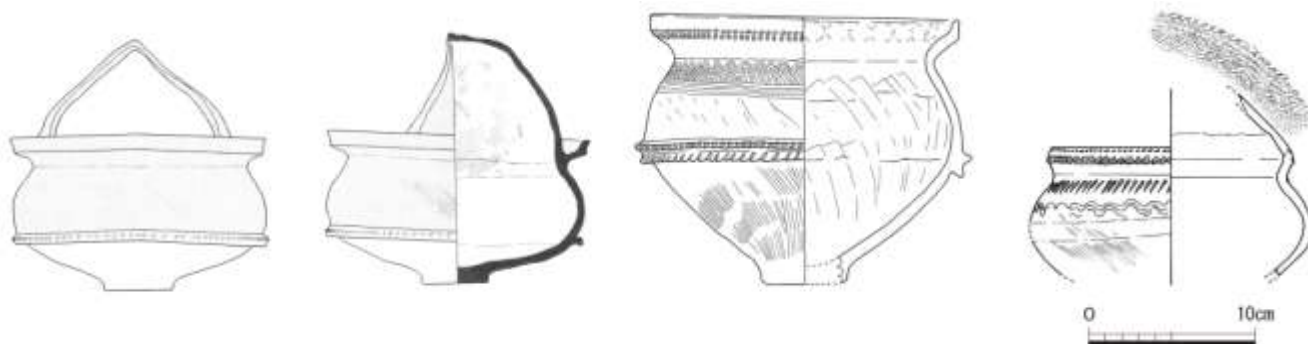


図1 手焙り形土器
弥生時代後期中葉
《恩智遺跡》溝(SD13)

図2 近江系の鉢
弥生時代後期中葉
《八尾南遺跡》流路3左岸-d域
[2008『大阪府文化財センター調査報告書

図3 手焙り形土器
弥生時代後期中葉
《弓削遺跡第1次》溝(SD301)

編集後記

元号は令和になり半年が過ぎました。平成から令和へ時代の呼名が替わったものの、普段の生活はさほど変わってないと感じておられる方が多いと思います。

しかし昨今、電話、カメラやそのほかの家電もデジタル化していく時代になり、デジタルは人々の生活には欠かせない存在となってきました。

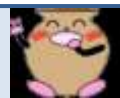
アナログ時代～デジタル時代へ、数十年をかけて徐々に移り変わっていく現代社会。これが時代の画期なのでしょう。

また、この先も技術の進歩により、将来はどのように暮らしが変化するのでしょうか？今後の動向にも注目です。

(KN)

イベント情報

- ◆秋季企画展「やおの弥生時代(後期)―邪馬台国時代前夜のようす―」
内容：八尾市域から出土した弥生時代後期の遺物を中心に展示
期間：令和元年9月26(木)～令和2年2月14(金)
時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
休館日：土・日・祝日・年末年始(但し10月27日(日)、11月16日(土)・17日(日)、令和2年1月19日(日)は休日開館)
- ◆講演会「邪馬台国時代前夜の河内の集落」
講師：西村公助(当施設学芸担当)
日時：令和2年1月19日(日) 八尾市文化会館4階会議室1
午後1時30分～3時(先着30名、資料代200円)



八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌

『八尾・よろず考古通信 21号』

発行：2019年10月31日

八尾市立埋蔵文化財調査センター指定管理者
公益財団法人八尾市文化財調査研究会
〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2
TEL・FAX 072-994-4700
E-mail: maibun_zyao@white.plala.or.jp

